

On Uiyur なる稱呼が事實上、Uiyur の眞個の名稱として用ゐられたるものなるを認めて前説を撤回し、然も碑文中只一度のみ其の歴史的事實を記せる前序の部に「〔河流地方？〕に残りし民は On Uiyur 及び Toquz Oryuz の上に百年間支配したり」と記さるゝ此の名は、實は Toquz Oryuz と相對して並記せられたるには非ず、兩名稱は相異なる部族を稱したるにはあらずして、同義の語 Synonym に過ぎざるべしとなし、On Uiyur なる名は Uiyur の國の古代の史事を語るに當りて實際上古く用ゐられたる名を記したるものして、Toquz Oryuz は同部族に對する新しき名稱に外ならざるべしと見、更に進みて On Uiyur なる部族を漢史に求め、隋書鐵勒傳に「獨洛河北、有僕骨、同羅・韋紇・拔野古・覆羅、並號俟斤、蒙陳・吐如紇・斯結・渾・斛薛等諸姓、勝兵可二萬」とあるを捉へ、茲に擧げられたる諸部は合して十部にして、其の名稱及び住所は後に廣く回鶻と稱するものと大體に於て相合すれば、此の On Uiyur なる名稱は六世紀に於て成り立ちしものにして、其の政治上の關係は隋代(581—618)に溯り、而して以前より最も有名顯著なる Uiyur 部の名を取りて附するに至りし政治的團體を稱したるものなりと見、尙 Toquz Oryuz との關係に就きては、Toquz Oryuz なる名は六四六年^{*}以來現はれ得べき政治的團體の名稱にして、其の團體に屬する部族は以前の On Uiyur に屬したる部族の多くを含み、而して本來の Uiyur 部が之を統率したるものならざる可らずとせり。(*六四六年は貞觀二十年に當る、氏が此の年代を採りたる根據は、Hirth 氏の Nachworte zur Inschrift d. Tonjukuk, S. 136 に在ること氏の示す所なれども、Hirth 氏は九姓の成立したる時代に就きて何等言及したるには非ずして、只貞觀二十年に於る薛延陀の咄摩支の事件に關して引用したる舊唐書の記事(第三二二頁に引ける舊唐書の記事參看)に九姓なる語を載せたるあるに過ぎず、此の記事を以て九姓の名